

北陸大学ライブラリーセンター報

Bulletin NO.26

⇒ をクリックすると本文がご覧になれます。

⇒ 読書のすすめ

山崎 博久
(未来創造学部教授)

利用学生の声

⇒ ライブラリーセンターについて

リ ギョウバイ
李 暁玫
(薬学部 薬学研究科 大学院2年次生)

⇒ 僕なりのライブラリーセンター活用法

坂倉 一輝
(薬学部 薬学科 4年次生)

⇒ 本のパワー

木下 夢大
(未来創造学部 未来文化創造学科 3年次生)

⇒ 留学生の友 ― 図書館

スウ ギョウウ
鄒 暁宇
(未来創造学部 未来社会創造学科 4年次生)

⇒ 平成20年度 石川県大学図書館協議会について

⇒ 卒業記念寄贈図書

⇒ 目次

HOKURIKU UNIVERSITY LIBRARY CENTER

北陸大学ライブラリーセンター報



アンチ読書のすすめ —考えることと選ぶこと—

未来創造学部教授 山崎 博久



「読書とは他人にものを考えてもらうことである」。「一日を多読に費やす勤勉な人間は、しだいに自分でものを考える力を失っていく」。「多読は精神から弾力性を奪い去る」。「自分の思想というものを持ちたくなければ、そのもっとも安全確実な道は暇を見つけしだい、ただちに本を手にするこことである」。

よく引用されるショーペンハウエルの言葉である。だが、彼自身は無類の読書家であった。実際、彼は一切の読書を否定したわけではなく、槍玉に挙げたのは二種の悪しき読書である。1つは熟考・思索を伴わない多読であり、もう1つは良書と悪書の区別なき乱読である。だから、「悪書は、読者の金と時間と注意力を奪い取る」、「悪書は精神の毒薬であり、精神に破滅をもたらす」とまでいう。

思索抜きが多読の弊害については、ショーペンハウエルを待つまでもなく、昔から多くの人に指摘されてきた。多読そのものがよくないのではない。考えないことが問題なのである。いまだに、知識を得ることが読書の目的だと思い込んでいる連中がいる。書物に書いてある情報はほぼインターネットにも載っているから、昔に比べて本を読む必要性は小さくなったなどという。こういう人間は、間違いなくショーペンハウエルの軽蔑の対象になろう。そうかと思えば、自分の話のネタを拾うために書物を漁るような連中もいる。これはもう論外で、軽蔑以下の対象でしかない。読書の意義は一知識を得ることもその一つではあるが、もっと大切なことは一、著者と対話することにある。それは、詩や小説などの文芸作品においてもそうである。偉大な作家たちに問いかけ、彼らと論争し、沈思・熟考し、そうした思索によって自分の思想を育むこと、これこそが読書の大きな意義である。

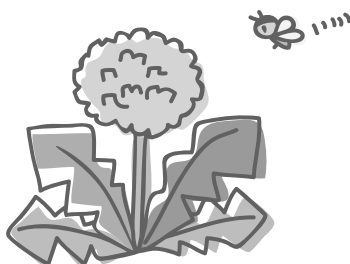
そうであれば、対話の相手が重要であることも容易に理解できよう。愚者と対話し続けていけば、やがて自分も愚者になる。悪書とは愚者の書いたものである。昨今、次から次と新刊本が書店に並ぶだけでは足りず、インターネットという怪物が情報の氾濫に一層の拍車をかけている。その中から読むに価するものを選び出すことはますます難しくなってきた。情報量の膨大化は、少数の宝に出会うチャンスをかえって低下させた。情報の洪水の中で精神は溺れ、知性は錆びついていく。豊かすぎる情報は、乏しすぎる情報とともに知性にとって有害である。巷で評判の本やベストセラーの本に遅れまいと飛びつく人がいる。だが、それらの大半はすぐに忘れ去られる運命にある。幾世代にわたり価値あるものとして読み継がれる本は稀である。

もちろん、面白おかしく楽しければ、それでよいではないかという立場もある。愉快的ひと時を過ごすことができれば充分で、読書も娯楽の一種と考えてどこが悪い。何が価値あるかは人によって異なり、年代によっても異なるだろう。その時々 of 享樂でかまわないさ、というわけだ。だが、我々の人生は短

く限りがある。心を萎えさせ、知性を鈍らせるものに貴重な時間を割いてもよいのか。どうせなら、心を豊かにし、精神を啓発するものに時間を費やすべきだと考える人もいよう。

もしそうだとしたら、では何を選んだらよいのか？読む価値のある書物をどうやって探し出すのか？それには本物を見分ける力を身につければよい。では、どうしたらその眼力が身につくのか？それは、本物と付き合うことによってである。本物と贋物を見分ける宝物の鑑定者は、ひたすら本物を鑑賞し続けることによってその眼力を養う。読書も同じであり、本物を読み続けることによってその力が養われる。では、眼力を養うための本物の書物とは？

それは、時代を超え、多くの人々の選別に耐えて生き残ってきた古典にほかならない。古典とは、単に教養を深めるための書物ではない。真質を見分ける能力を鍛えてくれる最高のトレーナーでもある。そして、古典に出会う時期は若いときほどよい。若い頃に古典に親しめば、その後の人生において多くの価値ある書物を伴侶に選ぶことができるからである。このことが当てはまるのは書物の世界だけではない。絵画・彫刻・建築や音楽などの世界にも共通していえることである。古典の絵画こそが本物の絵画を見分け、古典の音楽こそが本物の音楽を聴き分ける力を与えてくれる。それぞれの分野の識者が一様に指摘してやまない事実である。



寄 贈 図 書

本学の教職員等から、下記のとおり図書の寄贈がありました。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

書 名	寄 贈 者
金沢、まちの記憶 五感の記憶 他計 8 冊	小林忠雄 (未来創造学部教授)
百年華語	王涵 (教育能力開発センター教授)
Media and Politics in Japan 他計 2 冊	J. D. デニス (教育能力開発センター教授)
現代版・植物養生法：先端医療で使われる薬効食品の効力とメカニズム	杉山朋美 (薬学部准教授)
身辺的日本文化 他計 7 冊	汪麗影 (南京大学外国語学部日本語学科講師、元北陸大学国際交流センター講師)
アフターダーク 他計 6 冊	永田千鶴 (職員)

利用学生の声

ライブラリーセンターについて

薬学部 薬学研究科 大学院2年次生 **李 暁玫** リ ェウバイ



私は、日本に来て1年になりますが、薬学部のライブラリーセンターにはよく出入りしています。ライブラリーセンターは私にとって勉強や読書をする場所だけでなく、アルバイトや休憩をする場所としても活用しています。

日本に来た2007年の夏、どのように日本語のレベルを高めるか真剣に悩んでいました。中国では英語を勉強していましたが、日本語の勉強はほとんどしたことがなく、留学当初は英語でコミュニケーションするしかありませんでした。しかし、通じない場合もよくあり、「こんな状態が続いたらだめだな」「何か日本語の勉強に役立つ本があったらいいのに」と思っていました。このような気持ちがあり、私はライブラリーセンターを活用してみようと考えました。

ライブラリーセンターの特徴は、太陽が丘の本を薬学部のライブラリーセンターで頼むことができることです。どういうことかという、薬学部にはない本が太陽が丘にあり、どうしても借りたい時、わざわざ太陽が丘に行かなくても頼んでおけば借りることができるということです。特に実験が忙しい時は、手間をかけなくても気になる本を簡単に手にすることができます。

また、ライブラリーセンターのパソコンで全学の講義のビデオを自由に見られること、日本語、英語、もちろん薬学部の講義などいろいろな授業を見て勉強することもでき、学生にとって本当に便利な事だと思えます。

さらに、大学院生にとってもライブラリーセンターは非常に重要な場所と言えるでしょう。大学院生は、実験を行う前や行った後論文を探し読むことが必要です。ライブラリーセンターの3階には最新の雑誌、また4階には古い雑誌の製本が並べられています。4階のパソコンが配置されている机の上には雑誌製本リストがあり、その中に雑誌の名前や出版年月日、また配置場所が載っています。論文を探す時など役に立ちます。また、ライブラリーセンターのサイトへ入れば、キーワードを入力するだけで気になる論文を探すことができ、Science Directで多くの論文を全文読むことも可能です。これは、全て無料で見ることができます。いつも必要な情報を即座に得ることができるので、ステキなことだと思っています。

一方、薬学部のライブラリーセンターには勉強や読書をする場所だけでなく、あまり知られていない隠れ家的なレコード室も設置されており、ここで音楽を聞きながら窓外の風景に浸っていると一日の疲労感が全て飛んでいってしまいます。私も時々、図書館のアルバイトや実験などで疲れた時、リラックスするために利用することがあり大変役に立っています。

北陸大学のライブラリーセンターは、勉強、読書、休憩など色々な意味で利用することが可能ですので、私は充実した生活を送ることができています。皆さんも是非、ライブラリーセンターを利用し大学生活を有意義なものにしてください。

僕なりのライブラリーセンター活用法

薬学部 薬学科 4年次生 坂倉 一輝



ライブラリーセンターは、調べ物や勉強を目的に利用する人がほとんどだと思います。基本的にインターネットの使えるパソコンがあり、専門書も多くあるライブラリーセンターは、やはり調べ物にもってこいの場でしょう。また、静かに集中でき、個別に分かれた机があるので、試験前やレポート作成にもいいですね。でも、ライブラリーセンターは、これ以外にもいろいろな活用法があるのです。

たとえば、DVDを見ることができるのを知っていますか？意外にみんな知らないようです。ライブラリーセンターでカウンターのそばにあるリストから好きなものを選びカウンターに作品を告げるだけで、ライブラリーセンターのパソコンで見ることができます。もちろんタダ。結構新しいものも多いのです。

また、ライブラリーセンターにある本は、全て専門書というわけではありません。小説や文庫、コミックだってあるのです。僕もそうですが、北陸大学は遠方から来ている学生が多いので、帰郷や旅行のときに数冊借りていけば、往復の時間があつと言う間です。これもまた、結構新しい本があるので、読みたかったものがあるかもしれません。薬学棟のライブラリーセンターにも文庫があるのです。3階トイレの隣の部屋。ちょっと怪しげなその部屋には文庫や小説がずらり。お出かけの時にはぜひどうぞ。

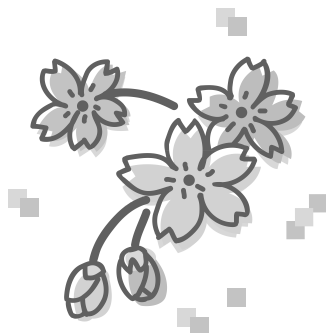
最近出たばかりで、気になっているがライブラリーセンターに置いてない本が読みたい、そんな時にはリクエストもできるのです。本が届いたら連絡が来て一番最初に読めるので、嬉しい制度ですよ。

もし、面白い本に出会い、誰かに教えたいときは読書コメント大賞に応募してみるのもいいかもしれません。見事月間賞に輝けば、図書カードがもらえます。感想文ではなく、コメントなので、気楽に人にすすめる感じで構わないそうです。

でも学生にとって最大のライブラリーセンター活用法は、やはり勉強に使うことかもしれません。国家試験や定期試験が近くなってきた時期には、静かに集中できる薬学棟ライブラリーセンターで勉強すれば進み方が違います（たぶん）。あの張りつめた空気が苦手という人は、ゆったりしながらも個別のスペースがある太陽が丘ライブラリーセンターがおすすめです。

勉強に疲れたら、薬学棟ライブラリーセンター2階にあるレコード室でふわふわのソファでくつろぎながらレコードを聞いてみるのはいかがでしょうか？無数のレコードがあり、知らない時代の名曲を聞きながらゆったりすれば、息抜き完璧です。ただ、爆睡にはご注意ください。

調べ物や勉強だけでなく、ライブラリーセンターには色々な活用法があります。せっかくのライブラリーセンター、これを機会に利用してみたいはいかがでしょう。



本のパワー

未来創造学部 未来文化創造学科 3年次生 木下 夢大



私にとって本とは、未知なる可能性を秘めたモノであり、「人生を楽しみながら歩む為の一つの材料」です。

一冊の本は、数え切れないくらいの情報から成り立っています。その情報を追っていくと、まるでネットワークのようにどこまでも繋がっていきます。情報のネットワークは様々なジャンルを横断し、更に新たな世界へと広がっていきます。新たな世界へ入ると、新たな発見に出会います。それは今までの世界では見つけることができなかった、私の未知なる世界です。一冊の本を手にとることで、それだけのものを手に入れることができるのです。

現在、情報はインターネットによって、マウスをクリックするだけで得ることが出来るようになりました。インターネットもまた、情報のネットワークであり、私たちの一つの情報源となっています。もちろん私自身も利用しているし、これほど「便利」なモノはないと感じています。

しかし、同じ情報を得ることで、インターネットと本には大きな違いがあると思うのです。インターネットで情報を得る場合、簡単に手に入れることが出来ますが、その情報の核を認識することが困難です。それは、核に対する枠組みとなる部分が欠けてしまっているため、情報の本質が見えにくいのです。その結果、実際にその情報の本質を知らないまま、曖昧に理解してしまいがちです。

本はどうでしょう。核と枠組みが必ずあります。本の目次を見ると、核となる大きなテーマがあり、後はテーマに沿った枠組みとなる要素が含まれています。そのため、一つの核を様々な視点から考察する事ができ、核の本質を理解しやすいのです。そこに本の強みがあります。本を読むことで、物事の理解の仕方が学べるのです。

今ではどこへ行くにしても最低一冊は持ち歩いています。私はもともと読書が好きだったわけではありません。そのようなことは大学2年生になるまで考えたこともありませんでした。大学2年になって、サミュエル・ハンチントン著『文明の衝突と21世紀の日本』という本を使った授業がありましたが、その本は私にとっては未知の世界でした。それまで文明の衝突が私たちにどんな影響をもたらすとか、21世紀に入って日本の課題は何なのかなど考えた事がなかったのです。

この本の核となるのは「世界のかたち」です。冷戦後の世界はこれまでに例のない「一極・多極体制」になりつつあり、「文明」ごとに世界が形成されてきています。核の枠組みは、超大国アメリカと複数の大国との関係性、多極化・多文明化する世界の国際関係、そして文明の性質といった流れです。そうした現在の世界の中で、日本はどのように生きていけばよいのでしょうか。

私はこの本を通して、世界がどのように形成されているのか、そしてされてきたのかを理解することができました。今まで、世界を外側からしか見てきませんでしたが、内側を見るのがいかに必要かを感じることができました。この本のおかげで、私は核と枠組みを意識しながらニュースや新聞を読むことができるようになりました。「意識」しながら、授業を受けることが出来るようになったのです。

今は福沢諭吉著『学問のすゝめ』を読んでいます。人が幸せになる為の学問の重要性を、今さらながら感じるようになりました。私は今、本を読むことによって様々な知識を得て、世界に対する価値観が養われているような気がします。そしてその中に楽しさを感じます。私のネットワークが、様々なジャンルへ、新たな世界へと広がっているように感じます。

本にはこのようなパワーがあると感じ、今も本に向き合っています。

留学生の友——図書館

未来創造学部 未来社会創造学科 4年次生 スウ ギョウウ
鄒 暁宇



中国には「学問の道には終点がない」と言う諺がある。知識を求めたい学生にとっての良い先生とためになる友人、良き師良き友という意味である。つまり、豊富な資料を蓄える図書館のことである。

人間は、情報・知識を得ることによって成長し、生活を維持していくことができる。情報技術化の現代社会では、新しい知識、情報、科学技術の普及と交流は非常に重要な地位を占めている。図書館は情報を得る一つの手段である。日常生活、仕事のために必要な情報・知識を得、関心のある分野について学習し、政治的・社会的な問題などに対するさまざまな思想・見解に接し、各自の趣味を伸ばし、読書習慣を培い、本を読む楽しさを知り、想像力を豊かにすることができる。図書館は日常生活の重要な仕組みであると思う。

二年間図書館で勉強したことが、間もなく北陸大学を卒業する私にとって、深い意味があると考えている。

先日、先生から「北陸大学で一番好きな所はどこか」と言う質問をされた。「図書館である。他の所より、自由な雰囲気が満ち溢れている。」と答えた。北陸大学の図書館は青空に向かって、山の上にある四階建てである。優れた立地条件に恵まれて、インターネット、新聞、雑誌、言語学、経済学、経営学、会計学に関する様々な本を収蔵する。独自のコンピュータシステム*があって、特に留学生にとって、言語の難しさにより授業で理解が難しかった点や不明点があれば、これを利用して、授業内容を有効に復習して、内容を十分に身に付けることができる。また、新聞と雑誌を読んで、中国のオリンピック、四川省大地震、日本首相選挙、米国金融危機、米国大統領選などの情報もすばやく得られるし、世界各地の経済発展動向と社会発展状況を把握できる。講演会・読書会・鑑賞会・展示会などの活動時間のお知らせがあり、人との出会い、語りあい、交流が行われ、日本文化と生活を楽しむことができる。さらに、留学生にとって、日本語能力試験1級、期末試験やレポート、大学院試験、就職、卒業論文が重要である。各分野の資料を自分の片腕のように利用して、多彩な知識を教えてもらって、宿題を順調に完成することができる。北陸大学の図書館は有益な基本知識と専門技術を与えているだけではなく、独特な魅力を心ゆくまで感じさせる。

昨年、友達と一緒に大学院の研究計画書を書いた時、図書館で二か月ぐらい勉強して、新たな問題点、発展動向、結論を得るために、大量の資料と論文を収集して、知識を勉強し、消化し、先人がすでに研究した成果と国内外の科学研究の現状に基づいて、優れた研究成果と結びつけて、自分のアイデアを広げて、研究計画書を完成させた。非常に役に立ったと思う。したがって、どのように図書館の豊富な書籍を収集し、参考図書や新聞を参考にし、さまざまな有利な条件を活用することが必要であると考えている。ある質問に伴って、新しい知識を得ることを通して、自分の学習・研究能力を高めて、自分の知識の構造を拡大し、全体的な知識を豊かにし、独自の文化素養を向上させる。今後もこのような勉強を続けて、社会に貢献できるように努力したい。

図書館の静寂さと知識性に強く引き付けられる私にとって、館内で必要な本を積んで調べたり、あるいは興味に駆られて本を読み耽るとき、それに集中している間は気がつかないのだが、いったん周りを意識すると、その静けさに畏敬の念さえ感じるほどである。ページをめくる音やペンを動かす音が鋭敏に伝わってくるのである。この静寂の鋭敏さが精神を研ぎ澄ます。少なくとも私にとっては、図書館というのはそういうところで、こういった感覚を覚える場所は他にあまりないと思う。これは人生の幸せであると思う。

(*アルベスシステム)

平成20年度 石川県大学図書館協議会について

石川県大学図書館協議会は、石川県内の国立、公立、私立の大学図書館及び高専図書館で組織されており、現在は15の図書館が加盟しています。今年度は本学が幹事館となり、次のとおり実施しました。

- 定例会議 平成20年6月26日（木）
 (報告事項) 事業・決算・監査などについて報告がありました。
 (協議事項) 事業計画(案)・予算(案)などが審議されました。
 (質問事項) 相互貸借等の送料・会費・資料の保存期間などについて、意見交換がありました。
- 講演会 平成20年6月26日（木）
 テーマ「食と健康」
 講師：劉園英氏（薬学部准教授）
- 特別研修会 平成20年11月20日（木）
 1. 講演会 テーマ「大学図書館経営とラーニングコモンズ」
 講師：矢野正也氏（丸善株式会社 教育・事業本部 ソリューションセンター図書館サービスセンター長）
 2. 情報交換会 図書館内における展示企画・会費・資料の保存期間などについて、意見交換がありました。
 3. 見学会 北陸大学教養別館および心蓮社
 小林忠雄学術資料部長による案内・説明がありました。



劉園英准教授講演



矢野正也氏講演



教養別館



心蓮社



卒業記念寄贈図書



本学卒業生からの卒業記念品として、平成17年度以降の卒業生からは、図書を寄贈していただいています。

本学では、単に専門分野の知識のみを修得するのではなく、リベラルアーツ教育をいち早く取り入れ「読書・運動・芸術」にも大変力を入れて取り組んでいます。卒業生から贈られた哲学、歴史、自然科学、芸術、文学などの芸術書及び教養書は、本学学生にとって大切な財産となっています。

これらの図書は、「卒業記念寄贈図書」として、薬学部卒業生からの寄贈図書については、薬学部分館レコードミュージアム室（本部棟2階）に、外国語学部・法学部及び未来創造学部卒業生からの寄贈図書については、ライブラリーセンター本館1階に配架されており、在学生の学習及び卒業生や一般の方々の生涯教育に利用されています。

平成19年度の卒業生からは、本館には220点、薬学部分館には754点（内DVD145点）の寄贈がありました。DVDの寄贈は今回が初めてであり、『世界遺産』や『その時歴史が動いた』や『プロフェッショナルの流儀』なども贈られました。

編集後記

『御伽草子集』には、大江山の酒吞童子は鬼ではなく人間であり、越後の国の男性であったと著されています。通信手段が発達していなかった時代であっても、情報の混乱が人々を惑わせ怖れを抱かせました。情報過多と言われる現代こそ、確かな情報を得ることが重要です。そうすることで事実も明らかとなり、惑いや怖れが少なくなります。ライブラリーセンターを大いに利用し、確かな知識を得るすべを身につけてもらいたいと思います。

(柿木)

CONTENTS

	頁
アンチ読書のすすめー考えることと選ぶことー ……	1
寄贈図書 ……	2
ライブラリーセンターについて ……	3
僕なりのライブラリーセンター活用法 ……	4
本のパワー ……	5
留学生の友ー図書館 ……	6
平成20年度石川県大学図書館協議会について ……	7
卒業記念寄贈図書 ……	8



北陸大学
HOKURIKU UNIVERSITY

北陸大学ライブラリーセンター報
NO.26

平成21年3月31日発行

編集・発行：北陸大学ライブラリーセンター
〒920-1180 金沢市太陽が丘1-1
TEL. 076-229-3021
FAX 076-229-4850

ライブラリーセンターEメール：tlib@hokuriku-u.ac.jp
北陸大学ホームページ：http://www.hokuriku-u.ac.jp/

印 刷：カンタ印刷株式会社